

参加対象 教員および教育関係者

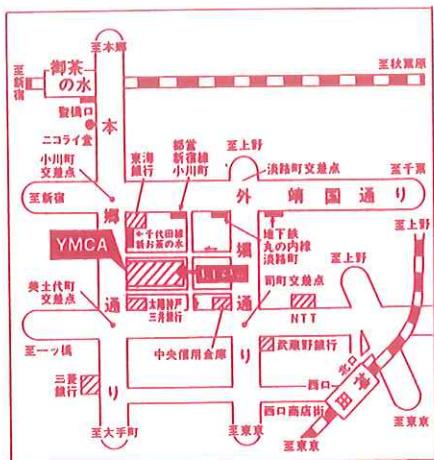
定員 基調講演=120名、研修=150名

参加費 3000円（基調講演のみの参加は1000円）

昼食代 1000円（30日の研修に参加する人のみ）※なお、なるべくゴミを出さないように、お弁当を

★申込受付後に、振込先を通知いたします。

持参いただける方はお願ひいたします。



### ■東京YMCA国際奉仕センター

JR

●神田駅 出口（西口、北口）

●御茶の水駅 出口（聖橋口）

地下鉄

●丸の内線 淡路町駅 出口（A-2・A-4）

●千代田線 新お茶の水駅 出口（B-6）

●都営新宿線 小川町駅 出口（A-6）

●銀座線 神田駅 出口（北口）

〒114 東京都北区田端1-21-18 淡路町ビル ERIC「口一」係 ☎03-5685-1177  
＊参考文献の方は、別紙の申込書に記入の上、下記の住所宛てお送りください。

日本二年会議会、帝塚山学院大学国際理解研究会、  
全国高等教育学校教育研究会、開発教育研究会、  
文部省、全国高等教育学校会議会、東京都教育委員会（予定）、  
後援 文部省、全国高等教育学校会議会、東京都教育委員会（予定）、

会場 東京YMCA国際奉仕センター 東京都千代田区神田美士代町7-1 ☎03-3293-7011  
開催日程 1994年1月29日(土)～30日(日)



東京YMCA国際奉仕センター  
国際理解教育・資料情報センター（ERIC）  
日本国際理解教育学会  
主催 (社)日本国際会議会議事務局

1994.1.29 30 SEMINAR

国際理解教育研修プログラム「グローバル・セミナー」開催のご案内

GLOBAL

## [開催主旨]

ますます深刻さを増す環境問題や格差が広がるばかりの南北問題など、地球規模で解決しなければならないさまざまな課題が山積みする現在、一人ひとりが「地球市民」として自覚を持って考え行動することが強く求められています。このような状況を背景に、教育の国際化が叫ばれ、英語教育や帰国子女教育などの実践が行われていますが、1974年のユネスコ国際教育勧告がいうところの、環境、人権、開発、平和等の分野をカバーした広い意味での国際理解教育の取り組みは、現在の日本において未だ十分に行われているとはいえません。

一方、イギリス、オランダ、オーストラリア、アメリカなどでは、教育現場（学校教育、社会教育）でさまざまな形の国際理解教育が展開されており、その実績には目をみはるものがあります。それらの成果の一部は日本にも紹介されるようになりましたが、必ずしも十分ではありません。

このような状況のもとに、第二次大戦直後から民間運動として国際理解教育の普及振興に取り組んできた（社）日本ユネスコ協会連盟、国際理解教育に関わる国内の人的ネットワークと研究・実践の促進を主な目的として1991年1月に設立された日本国際理解教育学会、青少年育成・国際協力活動等社会教育の推進に110余年の歴史をもつ東京YMCA、そして内外の実践紹介を中心に、国際理解教育の情報提供および研修を実施している国際理解教育・資料情報センター（ERIC）の四団体が協力して、眞の「地球市民」を育てる教育方法を学ぶ研修を実施することになりました。

今回のセミナーは、海外の国際理解教育の実践者から直接話を聞くだけでなく、模擬授業の形で体験を通して、その内容を十分に吸収理解し、日本での実践への道を探ろうというものです。そしてさらに、このような研修の積み重ねを核に、日本における国際理解教育の内容を深め、その普及を推進しようというものです。

## PROGRAM

### 1月29日(土)

- 13:30 受付開始  
14:30 開会  
14:40 基調講演  
・中野重人「伝統的な教え方からの脱皮 一斉指導から多様な指導へ」  
15:20 質疑応答  
15:45 休憩  
16:00 研修1（テーマ別）  
①誰にでもできる国際理解教育の様々な手法を体験  
キャサリン・マクファーレン  
②国際理解教育のベース（セルフ・エスティーム、コミュニケーション、協力）を身につける。  
スザン・ファウンテン  
③身近な対立を解決する方法を体験！  
ケリー・ミューレイ  
④イギリスの開発教育教材「ダッカからダンディーへ」を日本風にアレンジすると 小貫 仁  
19:00 終了

### 1月30日(日)

- 9:00 研修2（講師、内容共に研修1のつづき）  
12:00 研修3  
グループづくり  
12:15 昼食  
13:15 研修3（つづき）  
研修1&2を参考にしながら自分たちの授業・活動案をつくってみる…  
そして、実際にやってみる  
16:15 反省と閉会  
16:30 終了

# GLOBAL SEMINAR

## ●講師紹介

### 中野 重人

1937年鹿児島県生まれ。公立中学校教諭、宮崎大学講師・助教授を経て1979年より文部省教科調査官。1979～1989年社会科担当、1989～1992年生活科担当。1991年より文部省視学官として現在に至る。

主な著書に「社会科評価の理論と方法」（明治図書）、「生活科の授業づくりQ&A」（明治図書）、「生活科教育の理論と方法」（東洋館出版）など。

### Catherine McFarlane

キャサリン・マクファーレン（イギリス）

小学校の教師を経験した後、バーミンガム開発教育センター（DEC）のスタッフとして開発教育／グローバル教育の様々な教材を過去10年間開発している。最近は、環境教育、地理、理科などの分野の教材も開発。DECは、イギリスに数ある開発教育センターの中で、最も積極的に教員研修と教材開発を行っている。

主な著書は、「THEME WORK」「WHY ON EARTH?」「IT'S OUR WORLD TOO!」など。

### Susan Fountain

スザン・ファウンテン（アメリカ）

現在、国連ユニセフのコンサルタントとして、各国ユニセフ協会の開発教育担当者の研修を実施したり、マニュアルを執筆している。幼稚園および小学校低学年レベルで長年教えた後、スイスのジュネーブにあるインターナショナル・スクールでも教えていた）、イギリスのヨーク大学で修士レベルの論文を書く。その評価が極めて高く、イギリスの世界自然保護基金（WWF）から「LEARNING TOGETHER (GLOBAL EDUCATION 4-7)」として出版されている。

### Kerrie Murray

ケリー・ミューレイ（オーストラリア）

現在、対立の解決（Conflict Resolution）ネットワークコンサルティング グループ代表教師。様々な民間団体や行政や企業を対象に、より効果的な会合やコミュニケーションの持ち方、対立の解決、ストレスの管理など多様な研修プログラムを実施している。ちなみに、来年は国際「寛容」（Tolerance）年とか。一方、大学

時代には日本語を学んだほどの日本通。

主な著書に「対立の解決トレーニング マニュアル」など。

### 小貫 仁

埼玉県立川越高等学校教諭。社会科の教職をとる傍ら、国際理解教育・開発教育に強い関心をもち、市民運動に積極的に取り組んでいる。1992年12月～1993年1月にかけて日本ユネスコ協会連盟の主催するパングラデシュへの高校生ワークキャンプに参加し、パングラデシュ農村の現実に出会った。現在、開発教育協議会の理事をボランティアで引き受け「知る」「考える」「活動する」を自ら実践している。

教材作成では、イギリスの開発教育教材「DHAKA TO DUNDEE」の翻訳勉強会を通して、生徒を主体とした新しい教育方法の導入に力を注いでいる。



お互いにピースを提供しあい協力する

## 「自尊感情」基盤に

「グローバル教育」の手法を紹介

京・東根小  
区立

国際理解はまず自分を受け入れることから一視野を世界に広げるグローバル教育で近年、重視されている「セルフ・エスティーム」(自尊感情)。その育成を目指す実践活動の紹介が一月二十七日、東京・目黒区立

東根小学校(中尾敦子校長、児童数六百三十二人)で行なれた。授業者はヨニセフ

(国連児童基金)開発教育担当として来日中のスーザン・ファウンテンさん。自

分も他人も受け入れあうゲームを紹介した。言葉を使わずに常に動作で級友に伝えられるのは、仲間の行動が手に自分の生まれた月を知らせます。同じ月生まれの人がグループをつくりましょ。子どもたちは指で何

かを知らなければいいこと自分の属性と他人との接点を知らせるもの。数多く分類すればそれだけ発見も多くなる。

ほかに一人ひとりに配布された写真の一部(ピース)会をみてまた実施したい」と話した。

の人と仲間になりましょで、それぞれが自分のピースを提供しあい、各団の友達とそうでない友達がいるため、グループわけにも少し手間どる。黙って行動させるのは方向性や過程がより鮮明になるため。

ファウンテンさんは教員向けにグローバル教育のどもの顔写真を完成させるグループワークもあった。「いっしょに学ぼう」(ER

ス)を提供しあい、各団の員向けにグローバル教育のねらいや進め方を著した(『IC編訳』)の近著がある。問い合わせ=〒114 東京都北区田端一-12-1-八

津田ビル1F 国際理解教育資料情報センター 03-5685-1177



# 米国人専門家を招き



互いを理解し合うことを教えるスザン・ファウンテンさん(中央右)  
東京都目黒区の東根小学校で

## 「国際理解テーマ」にモール授業

子供たちを地球市民に育てる「国際理解」の教育を普及しよう、海外から専門家を招いたモデル授業

が、このほど

東京都の小学校で行われた。日本では

まだ環境や人権など広い意

味での国際理解教育が十分に行われていない。日本ユネスコ協会などが主催し、全国で開いてきた「地球セミナー」の一環だ。

「世界にはどんな人が住んでいるか、みなさんに分かっているか、互いを理解し合うことを教えるスザン・ファウンテンさん(中央右)」  
東京都目黒区の東根小学校二年三組。ユニセフのコンサルタント

トとして人権や環境問題などを国際理解教育のプログラムを作っている米国のスザン・ファウンテンさんの授業は、こんなあいさつで始まった。

最初はグループ作りのいろいろな仕方から。

「自分は何月生まれか、考えて。静かに歩き回って、相手に自分の生まれた月をそ

## 違いや共通点を認め 尊重する姿勢教える

といい、同じ月の人は仲間になってください」。次に、「あなたの家は何人家族?」と家族の人数でグループ分けを行った。日本ユネスコ協会などが主催し、全国で開いてきた「地球セミナー」の一環だ。

「世界にはどんな人が住んでいるか、互いを理解し合うことを教えるスザン・ファウンテンさん(中央右)

東京都目黒区の東根小学校二年三組。ユニセフのコンサルタント

がいくつか。「ほかの人の片を取ってはいけません。でもあげることはできます」。自分だけ作ろうとしても

母子家庭の子がかわいそう、見学した日本の先生がいついた。しかし、誕生日で分けると、その子は一番大きくなっています。

グループに入るかも知れない。違いや共通点はさまざま。自分で作ろうとしても

それが認め合ってこ

う。

△

この二月、ファウンテンさん

の授業の実例をまとめた

『いつしょに学ぼう』(国際

理解教育・資料情報センター

編訳、二千六十円)が出版さ

れた。問い合わせは同センタ

ー(電話〇三一五六八五一一七七)へ。

いを知り、共通部分をさがすことでもあると分かってくことでもあると分かってくべきあがった顔写真を素材に違ひは? 共通点は? ど

この国からきた子かわかる?

最初は、通訳をはさんでの

使ってのグループ学習。六、

七年ずつの班に分かれた子供たちも、すぐに慣れてさまざま

まな国の子供たちの顔写真を

使った。中には顔写真の断片

質問に戸惑いぎみだった子供たちも、すぐに慣れてさまざま

まな声があがつた。

参観した目黒区守屋教育会館教育研究所の研究員金子富美子さんは、「グループ分けの例で、家族の数で分けると

母子家庭の子がかわいそう、

参観した日本の先生がいつ

いた。しかし、誕生日で分

けると、その子は一番大きくなっています。

それでも「子供たちは電車の中で外国人に出会うと、避けたり逃げたりするのが実情。ガイジンと指さして不愉快な思いをさせることもあります。もっと相手を尊重し、協力しあう、本当の国際理解を教えなければならないと思います」と金子さんはい

い。区内の小中学校は、外国人や帰国した子供たちを多く受け入れ、文部省から「帰国子女受け入れ推進地域」に指定され、国際理解教育も比較的行われているほうだ。

1994年(平成6年)1月24日

月曜日

東月

二

東京

星

# 家庭

## 「地球市民」の視点を尋ねる

### ユニセフ職員ら招き講座

大阪の3市で

食料や衣服などに外国産品が増え、外国人労働者を中心にすることも普通になつたいま、「地球市民」としての考え方を身につけようといろ講

て、熱帯林の破壊や発展途上国の貧困、飢えなども私たちの暮らしとかかわっていることを知る試みだ。

各国のユニセフ協会の担当者を指導しているユニセフの開発教育担当官、スーザン・ファウンテンさん(英語担当官)を講師に、ゲームなど参加体験型の講義を通じ

て、午後五時)には大阪市立大淀コミュニティセンターで、それぞれ「協力」「話し合い」「自己信頼」の大切さを子どもたちに学ばせるプログラムなどを紹介する予定だ。

センターで、六日(午前十時~午後五時)

(○七二七一~七一六九一

二)も二十六日からの毎週水

曜午後七時から、五回連続の

国際理解講座「地球市民として生きる」を開く。南北格差

や農村開発の問題、在日韓国

・朝鮮人の今日的課題などに

について、アジア保健研修財団

事務局長の池住義憲さん、シ

ヤブランニール市民による海外

セミナー」が主催する連続セミナーの第一回。大阪市の国際子ども権利センター(○六一三七五一五四六六)などが主催する「グローバルセミナー」。

また、箕面市国際交流協会

(○七二七一~七一六九一

二)も二十六日からの毎週水

曜午後七時から、五回連続の

国際理解講座「地球市民として生きる」を開く。南北格差

や農村開発の問題、在日韓国

・朝鮮人の今日的課題などに

について、アジア保健研修財団

事務局長の池住義憲さん、シ

ヤブランニール市民による海外

協力の会の下沢嶽さん、在日韓国朝鮮人学習センター代表の鄭早苗さんが話す。

說高 1994年2月3日



頤

米バッサーカレッジ卒。  
91年から、ユニセフ教育コンサルタントとして、多文化教育の教材作りを担当。  
ニューヨーク出身。40歳。

「グローバル教育」の普及に取り組んだ  
スザン・ファウンテンさん

を探す。次は、「好きな物が同じ友達を見つけよう」。また違ったグループができだ。

「他人との共通点を発見する練習。自分はいろんなグループに属しているという自覚を持たせるのです」

大学で児童心理を学び、米国内で八年間、幼稚園で教えた後、

異文化を背景に持つ人と共に暮らす社会では、異質の価値を認め、協調していく感性を育てなければならない。それが一九七〇年代後半から歐米で発達した「グローバル教育」。各国の教育関係者の間に急速に関心が高まってきた。

は十八日まで。東京や宮城の学校で、通訳同伴の模擬授業を行つてゐる。

たまって」。先月末、東京の小学二年の授業はスーザン先生の、のびやかな声で始まった。子供たちは「一月」、「二月」と繰り返し、教室を回って仲間

八十か国の子供が集まるユネスコのインターナショナル・スクール児童部に赴任した。そこで、「人種、宗教の違いから対立する子供たちの心をつなぐ

ぼう」（国際理解教育資料情報センター）にまとめられている。

.....

## Newspeople

### UNICEF consultant teaches global views

Susan Fountain is a firm believer in the concept of "global education," and she is currently visiting Japan to spread the gospel.

Visiting classrooms in Tokyo and Miyagi-ken, the 40-year-old U.S. educator tries to teach students that there are many different cultures and opinions and that they should be sensitive to and aware of the differences.

During a stop at a primary school, Fountain broke the ice by telling a class of second graders to form groups with students "born in the same month as you were born." Students began walking around the room, calling out "January," "February," "March."

Fountain then asked the students to form groups with "people who like to do the same things as you do." New groups were established.

"These kinds of classroom exercises help students become aware that they be-

long to a variety of different groups," Fountain said.

A graduate of Vassar College in Poughkeepsie, N.Y., Fountain taught kindergarten for eight years in the United States before landing a job at an international school in Geneva.

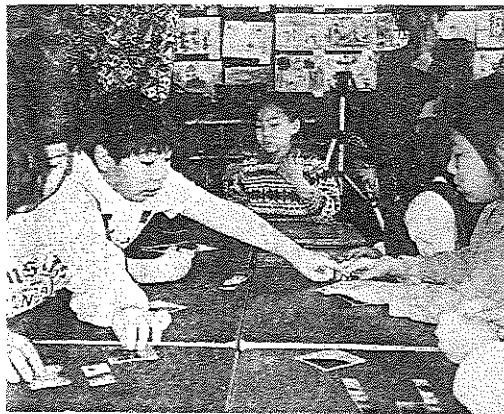
Since 1991 she has been working as an educational consultant for UNICEF, developing teaching materials for multicultural education programs.



THE DAIRY YOMIURI

Feb. 11, 1994

1994年 2月 21日(月)



目で合図しながら協同作業する児童たち

「うつん」と口々に「十月が飛び立つ。やがて、月別のグループに分かれていった。自分たちは同じ要領で家族は何人いるかで仲間を探すように指示。「今度はじゃべらないで」とファウンテンさんは。児童は指で数字を示す。ファウンテンさんは「ゲームを通して、今まで知らなかった仲間がいる」と口づきまつたね」「違う仲間、きます」と説明。違うグループについて、仲間づくり(ゲームする)他の人がビースを取り上げる」と説明した。

やらせたり」と口々に、「しゃべらないと誰に自分のが何をやるのがプロセスがみえる。つまり」と話した。また、沈黙破壊で作業を始めると意識化されます」と説明した。

参観した同校の谷藤恭一教頭は「今日は子供たちに一粒の種をまいてもらつた。日本の子供たちが世界に目を向けるきっかけになつたのがよく語っていた。

ERIC=14 東京都北区田端一丁目二十八、津田ビル五階／103(五)

## 教育新聞

# 「仲間づくり」で人権教育

## ゲーム感覚で信頼関係

ファウンテンさん(米国)が小学校でモデル授業



タンザニアはどこかな？

国ニヨーネーク在住の米国人。児童は質問は？と聞くと、話題は「ヨーヨー」。聞くところによると、尼羅河から始められた。この日の授業のテーマは仲間づくり。各班がある一定程度を持つ集団の構成員であることを気つかせていくもので、「ヨーヨー」を組んで、自分のことを知ることがない。また、班टーから始める。担任の先生の指導で六七人の班が出来上がった。

ファウンテンさんは立ち上がり教室中を歩きまわるよう指示。自分の誕生日と同じ仲間を見つけるためだ。児童からは盛んに「十月が飛ぶ」と口々に「十月のグループに分かれていった。自分たちは同じ要領で家族は何人いるかで仲間を探すよ」という指示。自分の誕生日と同じ仲間を見つけるためだ。

「米国人でも好き嫌いいろいろ違います」とファウンテンさん。この日の授業のテーマは「日本人でも好き嫌いいろいろ違います」と、自分たちの民族であることを気つかせていくもので、「ヨーヨー」と組んで、自分のことを知ることがない。

また、「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを展開。世界各地へ

と児童は聞かれて、「男と女

の身中の数は違う」を

教えてくれた。

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

ートとズボン」「七歳と八

歳」などと盛んに手があが

った。

このあと、写真を使った

ゲームを使つた

と、同じ仲間になると

ができる」とゲームの意

味を説明する。

また、「ほかにどんなダ

ループができると思つか

ない理由は…」。片や質問

が好きな食べ物に及んで、

「友人(仲のいい)」「スカ

